

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山には年間300万人が訪れ、豊かな自然や史跡などの宝庫です。当会では、自然観察会や環境パトロールを行い、植生、生きもの、景観、周辺の案内板などの変化を記録しています。今後は関係者とともに、現場でも情報交換を行い、より意義ある調査活動にしていきます。

湯殿川は水質が改善され、さまざまな水生生物が復活し始めており、特に、蛍の生息域が年々広がっています。しかし、川中の粗大ごみやプラスチックごみが多いため、地域と協力して川の清掃に取り組んでいます。また、流域の歴史・史跡の探索マップを作製し、川への理解を深めています。

南浅川は親しめる水辺が少ないため、市に環境改善を提案していますが、台風19号で活動地である駒木野の野草保護地も土砂で埋まるなど大きな被害を受けました。今後自然災害とどう向き合っていくかが大きな課題となっています。

令和元年度は5校で環境教育支援活動を行いました。今後、参加校が増えることを想定し、支援内容、支援体制の強化を図っていきます。

いちよう祭りでは、高校生、大学生、事業者、市民と協力しクリーンな祭りに貢献しています。その他に地域センター祭りや、町会、団体の子供を対象としたイベントにも参加し、当会の培った地域の環境情報、知見等を通じ地元と交流を図っています。

■ 西南部地区の主な取組

1 高尾山の環境保全活動

令和元年度は、年3回観察・パトロールを実施し、高尾山の多様な動植物、固有の生態系、構築物等の変化を記録しました。高尾山レンジャーとのミーティングも実現し、情報を共有することができました。

また、登山者の一極集中を避けるための、周辺の山稜への案内板・道標設置について、今後も提案を続けます。

2 地域の宝の掘り起し

自然体験講座「陵東エリアの自然と名所旧跡のハイク」を11月に開催するため、武蔵陵とその周辺の、自然や名所旧跡などの案内文を作成し準備を進めましたが、雨天のため中止しました。

また、道路建設、大型施設の開発、田畑の放置などの理由により、自然景観の変化があったため、エコミュージアムマップの見直しを行っています。各種イベントに活用し、市民に関心を持っていただくために、改訂版の発行に取り組みます。

3 里山の保全活動

地区内の里山新発見の調査を終了しました。

「池の沢に蛍を増やす会」や「林をつくるコミュニティー」と連携し、観察マップを作製し自然観察や里山体験を実施しました。新たな観察マップを基に作られたビンゴゲームやクラフトなどの工作は、自然に触れ合う楽しさを体験できると好評でした。



稲荷山コースパトロール



クラフトの工作を楽しむ

4 親しみのある水辺環境の構築

河川の水質調査(全国一斉水質調査)を行い、6月に地区内の8河川21か所で測定しました。測定地のCOD平均は0.5(昨年1.0)でした。8月には湯殿川の御霊神社付近の側溝から汚水が流れ、下流の明神橋付近で魚が被害を受けたため汚染源を調査しましたが、確認には至りませんでした。

5月に開催される“みんなの町の清掃デー”にあわせ、湯殿川の清掃を実施しました(13名参加)。自転車などの粗大ごみが捨てられていたため、啓発活動として、和合橋から白旗橋までの8つの橋のフェンスに、地元小学生が描いたポスター80枚を掲示しました。

12月には、南浅川の両界橋から五月橋までの水辺環境を調査しました(7名参加)。廿里橋付近の景観の改善(不要な排水管の撤去)、陵南公園沿いの踏み石の再設置、東横山橋下流への新たな踏み石の設置と水辺階段の改善を市に提案しました。10月の台風19号については、小仏川・南浅川の被害をつぶさに調査・確認しています。



ポイ捨て防止ポスター設置

5 生活環境保全

大気汚染NO₂調査を行い、6、12月に32か所で定例の測定を、さらに高尾大型商業施設開店に伴う汚染調査を土、日曜日に追加測定しました。6年間の経過をみると、曜日による差は見られず、店舗開店による影響はないと判断しました。定例の測定値は、若干低下傾向にあります。

6 環境教育支援

地区内支援校は5校(808名)、支援者数延べ100名(当会82名)で12回実施しました。緑が丘小、栲田小、東浅川小、横山第二小、長房小の4年生と、近くの河川で魚、植物の採取体験や、自ら興味ある課題を見つけ取り組む「課題別体験学習」を各校2回ずつ実施しました。

栲田小での学習では、河川の近隣住民に、河川の環境問題や、生活と河川の結びつき等を取材し、生活環境の重要性を学びました。

7 地域の環境活動との連携

いちよう祭りにて「ごみ分別指導」を行い、当会24名が参加しました。桑志高校、富士森高校と大学生約280名が参加し、ごみの分別を指導しました。1年生が全員参加する桑志高校では事前説明会を開き、ごみ総合相談センターが市のごみの現状を説明しました。当会は、平成30年度に続き資源プラスチックの回収に重点を置き、プラスチックによる環境汚染を提起しました。

7月に原宿町会主催の「子供会・川の学習」を陵南公園沿いの南浅川で実施しました。8月には、生活クラブ主催の「わたしのまちの水辺調査」を小田野公園の北浅川で実施しました。当会からそれぞれ9名が参加し、魚、水生生物を採取し、子供達と川について楽しく学べました。

■ 特色のある取組

長房ふれあい端午まつり(5月・15名参加)、横山南市民センターまつり(10月・9名参加)で、パネルなどの展示を行いました。2、3月は「駒木野の野草保護地」にて台風19号の越水土砂の除去や修復支援に参加しました。

浅川市民センターまつり(11月)は、10月の台風19号による被災地支援のボランティア活動拠点となり中止になりました。また、施設見学会、不法投棄パトロール、野草観察会などを新型コロナウイルス感染防止対策により中止しました。